

Course number		U-LAS70 10003 SB50					
Course title (and course title in English)	ILASセミナー（海外）：変容する東南アジア - 環境・生業・社会と持続的発展		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Agriculture Professor,KANZAKI MAMORU			
	ILAS Seminar (Overseas) :Changing Southeast Asia - Environment, Livelihood, Society and Sustainable Development			Graduate School of Agriculture Professor,HIGUCHI HIROKAZU			
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Hours	30	
Class style	seminar (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・Intensive, Second semester		Quota (Freshman)	15 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Intensive TBA	
Classroom	[Lecture] Faculty of Agriculture Main Bldg., [Training] Kasetsart University and e.t.c.				Language of instruction	Japanese and English	
Keyword	東南アジア / タイ / 自然環境 / 農林業 / 文化						
[Overview and purpose of the course]							
近年、変貌の著しい東南アジアの環境・生業・社会・文化を理解するために、協定大学であるタイ・バンコクのカセサート大学を中心に、2月以降に2週間弱の臨地研修を行う。							
[Course objectives]							
<p>現地研修に参加し、種々の講義を受けることにより、熱帯地域の農業・環境問題を認識し、理解を深める。また、タイの文化に関する講義と、文化施設を訪問することにより、異文化・異文化社会について理解する。英語での講義、英語での成果発表を行うことにより、英語の運用能力を高める。</p>							
[Course schedule and contents)]							
<p>Covid-19 のため、11月までに実施するか中止するか判断をしてKULASISで連絡をする。実施の場合は、春季休暇期間にバンコク、チェンマイおよび周辺地域での臨地研修（2月以降の2週間弱を予定）と、その前に安全管理に関する講義を含む集中講義を行う。現地では、本学の協定大学であるカセサート大学の講師陣の講義を受け、また、周辺地域では、農地、森林、文化施設等を訪問し、熱帯地域の農業環境問題を中心に、東南アジアについての総合的理解を深める。タイへの渡航費、滞在費は自己負担となる。</p> <p>(日本国内での講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．海外渡航時の安全管理、人々との接し方、海外渡航と健康、タイ語の挨拶 2．海外渡航時の連絡方法の確認 3．タイの自然・社会・経済環境・文化・歴史の概況 <p>臨地研修の日程と内容</p> <p>1日目：移動（関西空港 バンコク）、カセサート大学でのオリエンテーション</p> <p>2日目：講義（カセサート大学の歴史・現況・社会での役割、タイの自然と農業） ：移動（バンコク チェンマイ）</p> <p>3日目：講義（山地部の農業と環境問題）、少数民族（モン）村落での見学、同村長への聞き取り調査、文化施設見学</p> <p>4日目：移動（チェンマイ インタノーン国立公園）</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to ILASセミナー（海外）：変容する東南アジア・環境・生業・社会と持続的発展(2)</div>							

- ：講義（熱帯山地生態系、森林利用、湿地生態系、社会変化と森林資源管理）
 ：移動（インタノー国立公園 メーチェム）
- 5日目：講義（山地低地部及び山斜面の農業と環境問題、山地部の社会変化と農業環境問題）、少数民族（カレン）村落での見学、同村長への聞き取り調査
- 6日目：移動（メーチェム オップルアング国立公園）
 ：講義（森林利用、先史遺跡と地質）
 ：移動（オップルアング国立公園 チェンマイ バンコク）
- 7日目：アユタヤ史跡公園での講義（アユタヤ時代の歴史、文化）と史跡公園見学
- 8日目：移動（バンコク サムットプラカン）
 ：講義（塩田による製塩と環境問題、塩生植物の生理学）
 ：移動（サムットプラカン ダムナーンサドゥアック）
 ：講義（デルタの土地利用、沿岸湿地部の農業技術）、園芸農家見学と聞き取り調査
 ：移動（ダムナーンサドゥアック カンチャナブリ）
 ：講義（日本タイ交流史）、戦争博物館の見学、「戦場にかける橋」見学
 ：移動（カンチャナブリ バンコク）
- 9日目：移動（バンコク チャチェンサオ）
 ：講義（内陸エビ養殖と環境問題）、エビ養殖業者への聞き取り調査
 ：移動（チャチェンサオ サケラート環境研究所）
 ：講義（熱帯林植生と動物多様性）
- 10日目：講義（熱帯林植生と植物多様性）、落葉フタバガキ林と常緑林の見学
 ：移動（サケラート環境研究所 パクチョン）
- 11日目：講義（タイの食文化）、パクチョン市場における聞き取り調査
 ：移動（パクチョン パタナニコム）
 ：講義（タイにおける植林の問題点、平原部の土地利用と環境問題）
 ：移動（パタナニコム バンコク）
- 12日目：成果発表会
- 13日目：移動（バンコク 関西空港）
- （コメント） 受講者は、事前に行われる説明会に必ず出席すること。説明会の日時・場所は別途掲示する。研修旅行ならびに研修前の講義は、春季休業期間中に行う。伝染病・自然災害・政情など研修先の事情により臨地研修ができないことがありうる。その場合、国内での集中講義に振り替わることがあるが、支払った費用の一部は戻らないことがある。

[Course requirements]

旅行費用は自己負担。必要な金額については説明会で周知する。本人および保護者が自己責任の原則を了承の上、必要な保険等をつけること、海外滞在リスクを十分認識し自らを律することができることも、受講の前提となる。また、1月以降に予定されている農学部主催のオンライン交流事業への参加を推奨する場合もある。

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、ILASセミナー（海外）に参加することはできない。

[Evaluation methods and policy]

事前講義への出席、研修への参加状況、現地での成果発表会での発表内容及び英語運用能力の向上具合、帰国後提出のレポートの内容により評価する。成績評価の詳細は事前講義で説明する。

[Textbooks]

Not used

授業中にプリントを配布する。

[References, etc.]

（ References, etc. ）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

事前講義の内容を十分に理解、復習し、現地研修での準備を入念に行うこと。

[Other information (office hours, etc.)]

オフィスアワーは設けないが、下記のメールアドレスで、随時質問等を受け付ける。

kanzaki.mamoru.8s@kyoto-u.ac.jp

なお、現地研修は採点報告日（2月中旬）以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。

本科目は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、不開講となる可能性があります。

1 1 月までには連絡します。

[Essential courses]